

# 宗務所婦人会報

## 第31号



曹洞宗宮城県宗務所婦人会



### 目次

「ごあいさつ」	宗務所婦人会会長 金澤 洋子… 2	「こんな婦人会活動やっています、 「ふまねっと運動」 光明寺仏教婦人の会… 8
「挨拶」	宗務所長 三田村道雄… 3	「楽しい遠足」 妙心院婦人会… 9
「しあわせ求めて」	東北管区教化センター統監 高橋 哲秋… 4	秋の宗務所研修会—松島へ 圓通院婦人会… 9
宗務所婦人会平成30年度総会…	5	「東日本大震災を思う」 當行寺ハチドリ婦人会…10
檀信徒集会に参加して…	5	待ちに待った上棟式 耕田寺婦人会…11
曹洞宗婦人会東北管区研修会…	6	平成29年度新年研修会に参加して 耕田寺婦人会…11
「こころ美人」…	7	評議員報告、評議員とは…12
「出合い」…	8	宗務所婦人会平成30年度主たる事業…12
		編集後記…12

# いっしょに

曹洞宗宮城県宗務所婦人会 会長 金澤 洋子



今回役員改選にて佐々木昌子前会長から引き継ぎ会長を務めさせていただく事になりました清水寺檀信徒の金澤洋子です。あまりの重責に身も心も引き締まるおもいでありますが、教化センター様、県宗務所様、そして寺族様方のご指導、ご協力を賜り何とかお役をはたせる様努力致したいと思えます。

さて、六月には東北管区研修会が秋保温泉、ホテル「ニュー水戸屋」にて開催され東北六県から二七〇名のご参加を頂きました。私も当番県の代表といたしま

してみなさまをお迎えする「歓迎の言葉」を述べさせていただき初大役に緊張の連続でしたが、研修会は津軽三味線奏者浅野祥様、涙あり笑ありのテレホン法話とおなじみの早坂文明様、と心揺さぶる御詠歌の岡崎るみ子様、それに国際イメーショナルサルタント協会東京チャプター会長の神津佳予子様と多岐にわたる講師陣をお招きし大盛況を得ました。これも教化センター様、県宗務所様、そして役員一同皆様の一年にわたる準備と努力の成果と感謝申し上げます。

また七月には第四回曹洞宗宮城県檀信徒集会在八年ぶりにサンプラザホールにて曹洞宗管長江川辰三禅師様をお迎えし開催され曹洞宗の教えが私達の暮らしの

中でいかに大切であるかをお導きいただきました。その際私も婦人会の代表として禅師様の目前にて「発願文」を述べさせていただくというこの上ない名誉を授かりました。皆様のお蔭で何とか乗り越えられ感激と感謝でいっぱいでした。

十月には松島方面に県宗務所婦人会の一日研修会があり塩釜から松島までの遊覧船で島巡りをし小学校の遠足気分を味わい、そして平成の大修理を終えた国宝「瑞巖寺」を拝観し帰りのバスでは南こうせつさんの「澄み渡る空」を合唱し帰路に着き大変有意義な楽しい思い出に残る研修会となりました。

私達は仏縁という絆でむすばれたお仲間です。曹洞宗のみ教えに少しでも近づけられますように協力し合い、おたがいに成長していきたくたいと思しますので宜しくお願い申し上げます。

合掌

曹洞宗婦人会会員の誓い

おしみない心で

どうぞさしあげます

〈布施〉

やさしい笑顔で

どうぞしつかり

〈愛語〉

幸せを祈って

どうぞおさきに

〈利行〉

手をとりあって

どうぞごいっしょに

〈同事〉

私は、今日も菩薩さまの

願いに生きます

# 挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長 三田村 道雄



平成の時が流れて三十年。愈々師走を迎える時節となりました。

婦人会会員の皆様におかれましては常日頃、菩提寺を通じてのご活動、ご活躍そしてお力添えをいただいていること、誠にありがとうございます。

この度、県内ご寺院様の深いご理解とご支援をたまわり、十二月十一日より、所長の任に就かせていただきました。不肖もとより、浅学菲才の身、その任の重さに、身の引き締まる思いでございます。何卒宜しくお願い申し上げます。

私事ではございますが、「仏教婦人会」という組織との出会いは、昭和五十六年頃、あるお寺の行事に随喜した時

のことでした。準備のためには、早めにお邪魔したら、お堂の周りを方丈様寺族様として数名の女性の方々が一緒に清掃しておりました。お勤めの様々な準備を進めている中に、大勢の女性の方々が集ってまいりました。お勤めが終わり、本堂において参加者全員で茶話会が始まりました。方丈様に、本日お集まりの女性のことを聞いてみたら、皆さんお寺の「仏教婦人会」のメンバーだと教えていただきました。以前にも聞いたことはありましたが、行事にご一緒させていただいたのは初めてのことでした。当時私は、町の公民館に勤務しておりましたので、社会教育（生涯学習）の推進において、婦人ボランティア会等町行政指導の婦人会活動には参画しておりましたが、寺院における婦人会活動に参加させていただいたことは誠に良い経験になりました。更に方丈様に婦人会とは、

どういふ活動をしているのかをお伺いすると、三佛法要はもとより、短期法要のお手伝い、先進地視察（一泊研修）、精進料理教室、定期的に伽藍・境内の清掃等々、お寺に足を運んでもらい、終了後は、住職・寺族とともに茶話会（交流会）をしているとの事でした。

私にとりまして、「仏教婦人会」との出会いは、大変勉強になり、何か新鮮なものを感じることができました。

平成四年住職を拝命し早速、「仏教婦人会」として組織作りを始め結成いたしました。活動は、行事に際してのお世話をしていたり、研修会をしたり、時には詠讚歌の勉強をしたり、終了後は茶話会と、女性の立場としてのお寺との関わり、また地域ごとの交流等をいたしました。その結果、お寺を取り巻く環境が変わってきました。恒期法要等行事に際しましては、女性の方々の参加がより一層多くなり、更には護持会総会においても、女性の意見が反映される様になりました。寺院運営・檀信徒教化に際しまして、女性の立場からの意見が大変組織的なものをまとめあげ、スムーズに進められている感があり

ました。今は社会の変化に伴い、発足当時に比べ、数名の参加になりました。住職の不徳の致すところでございます。はずかしながら、自坊の一端を述べさせていただきます。

宗門婦人会の発足は、昭和五十一年に、当時の宗務総長による「これからの寺院を活性化させるためには、女性の参加が不可欠であり、寺族・檀信徒が一つになって宗門信仰に基づくさまざまな活動を展開し、寺院の興隆と地域社会のために尽力いただきたい」とのことにより設立されました。

各寺院婦人会、宗務所婦人会、本部婦人会と組織が成り立ち、宗門が掲げる『人権・平和・環境』の三大スローガンに則り、活動等を広げられていること、深く敬意を表すものです。

昨今、宗務離れ・寺離れと言われております。婦人会の活動・役割が益々重要になってくると思えます。

今後とも会員の皆様には、菩提寺における活動はもとより、宗務所婦人会活動についてもお力添えをたまわりますようお願い申し上げます。

合掌

# しあわせ求めて

曹洞宗東北管区教化センター統監 高橋 哲秋



宮城県宗務所婦人会の皆様におかれましては、菩提寺様の婦人会会員として諸行事に参加され、ご本尊様との縁とお互いの親睦懇親深められていることと存じます。菩提寺は勿論、教区や宗務所の総会や研修会でも、見聞を広めるのみならず、多くの仲間との出会いがあります。

平成三十年度の「曹洞宗婦人会東北管区研修会」は、八年ぶりに宮城の皆様が担当となり、去る本年六月五・六日に秋保温泉・ニュー水戸屋にて開催されました。厳粛な開会式典に始まり、浅野様さまの津軽三味線、早坂文明老師とピアノと御詠歌を交えての法話ライブ、SVA副会長でイメージコン

サルタントの神津佳予子さまの講演の全てから感動を戴きました。

これも偏に貴会役員の皆様を中心に「ひろげよう 信じよう 美しい心のふれあい」のテーマのもと、東日本大震災の復興と慰霊を忘れず、会合協議を重ねられてきた賜と存じ、衷心より敬意を表します。

皆様におかれましても無事成功裡に終わり、安堵されていることと思えます。東北各地から参加する方々へ細やかなおもてなしの心を以て運営に参画されたことは、まさしく「会員の誓い」である「おしみない心でどうぞさしあげます(布施)・やさしい笑顔でどうぞしっかりと(愛護)・幸せを祈ってどうぞおさきに(利行)・手をとってどうぞいっしょに(同事)」の実践そのものでありました。

大会を開催するに当たっては、参加者に満足して戴けることを念頭に企画・予算・配役などについ

て詳細に検討準備が進められます。担当配役の各々は与えられたことをきちんと努めていきます。その努力が報われ、「ありがとう」の感謝の言葉を戴いた時、こちらからも思わず「ありがとう」が出てきます。努力や苦勞が多いほど、「ありがとう」が心にしみます。早坂老師からは「当たり前前の対話が、有り難う」と教えて戴きました。

## しあわせ

「ありがとう」とともに私たちはよく合掌します。

言い古されたことですが、合掌は手のひらの皺と皺を合わせるから「しあ(シワ)わせ」の姿、手の甲には関節という節があつて手首が邪魔して「節合わせ」するのは難しい。人は本来「不幸せ(節合わせ)」ではなく、「しあわせ」が自然の姿だと言います。身体的不自由のために合掌が出来ない人であっても、お互いが理解しあう事は出来ます。

## 幸せ

自然の中で生きていくだけでも太陽の光や水や空気の恩恵で生かされている「しあわせ」が「幸せ」

であり、「有り難い」ことです。大自然の恵みや文化的・社会的恩恵、多くの人との縁など、私たちは既に数え切れないほど多くの「幸せ」を戴いています。

これは当たり前ではなく、有り難いことです。東日本大震災を体験した私たちは、当たり前と思っていたことが実は有り難いことを知っています。

## 仕合わせ

「仕合わせ」は仕え合う「しあわせ」です。「会員の誓い」のように、他のために尽くし相手が喜ぶ様子に接して得られる満足感の「仕合わせ」です。

「幸せ」な自分が誰かのために役立つと、更に「仕合わせ」になり、生きがいに通じます。今回の管区研修会での皆様は、まさに「仕合わせ」のただ中の姿であり、感謝と感動を沢山戴きました。



しあわせは歩いてこない  
だから歩いて行くんだよ  
一日一歩三日で三歩  
三歩進んで……



(岩手県 遠鷹寺 住職)



# 平成三十年度 曹洞宗婦人会東北管区研修会

日時 平成三十年六月五日(火)～六日(水)  
場所 宮城県秋保温泉「ホテル ニュー水戸屋」

## 日程

一日目 六月五日(火)

受付

開会式・輪絡子授与

オリエンテーション

講義1 浅野 祥(六十分)

休憩(きやら募金)

講義2 早坂 文明(七十分)

チェックイン(入浴)

薬石(夕食)

開枕

二日目 六月六日(水)

起床・洗面

小食(朝食)五観の偈

チェックアウト

お勤め

SVA紹介

講義3 神津佳予子(八十分)

閉会式

散会

## 東北管区研修会に

### 参加して

人はただひとりでは  
生きられない

妙心院婦人会

曹洞宗婦人会東北管区研修会は毎年各県持ち回りで開催されており、今年は宮城県が当番県。去る六月五日～六日に日程で、秋保温泉「ホテル ニュー水戸屋」が会場となり、東北各地より、二七〇名が参加致しました。

宮城県内婦人会員により献灯、献花、献香で始まり、おごそかな開会式を終えました。

最初の講義は津軽三味線奏者で有名な浅野祥さんの自伝と民謡を交えての弾き語りでした。浅野さんは五歳の時から祖父の影響で津軽三味線に出逢い、美しい音色に心を惹かれ、この津軽三味線の修行を積んでこられたと話されまし

た。

また、東日本大震災に被害を受けた自宅は大工だったおじいさんから二本の津軽三味線を作ってもらい、その内の一本がこれですと話され、会場内は感動の中に大拍手が起りました。さらに、アルゼンチンタンゴのアレンジなども披露され、今後は津軽三味線を世界中に広げたいと二十六歳の若い奏者は目を輝かせて会場を後にし



ました。

小休止の後、次の講義は元曹洞宗東北管区教化センター統監の早坂文明ご老師(徳本寺住職)による法話でした。ご老師は長くテレホン法話を続けられており、折に触れて何度となく拝聴しておられると思います。今回は「宅配便」というテーマで話され、例えば、若い夫婦が幼子を親に預けたため母乳は宅配便で送っているとか、墓に埋葬する遺骨を菩提寺に宅配便で送ったなどを挙げ、便利さと言う必要性もあるが、悪さもあると嘆かれておりました。更に、曹洞宗婦人会の「会員のちかい」にある「布施・愛語・利行・同時」を要約してお話しされました。

また、岡崎るみ子さん(当行寺寺族)の婦人会入会のキッカケとなった被災体験談の発表もありました。七年前の大震災時に寺の過去帳を持って車で逃げたものの、途中津波に流されてしまい、他家の給湯器の上にならずぶぬれ状態で見つかったこと六時間、消防隊のゴムボートで救助されたとのことでした。多くの人に助けられ、それが婦人会の入会につながったとの

ことを切々と語られ、「ひろげよう、信じよう、美しい心のふれあい」の合言葉にも通ずるものだと話されました。

法話の間にご詠歌をお唱えされ、胸にじーんと来るものを感じました。ピアノ伴奏の伊藤智哉さんは震災時には消防隊として人命救助は勿論のこと、遺体収容にも携わられたとのこと、その中で、赤ん坊を抱いた母親の遺体を発見した時は、涙が止まらなかったと話されました。

三人三様の語りと演出、そして早坂老師のユーモアのあるコラボで、浅野祥さんのライブにも劣らぬ盛り上がりで終わりましたが、「悲しみを知った人が本当の優しさを知る」ことを実感したご話でした。

夜の懇親会（薬石）の、歓迎セレモニーは仙台の格式ある「すずめ踊り」の口上から始まりました。舞台から降りて参加者も混じっての懇親の時間は楽しく進みました。二日目の講義は、コンサルティングの神津佳子さんからで、曹洞宗との関わりはカンボジアの子どもたちに絵本を贈ることから始

まったこと、そのため、書き損じハガキや切手などの協力で進めていることなどを話されました。

特に、コンサルティング活動の上で注意すべきことは、①外見、②立ち居振る舞い、③コミュニケーションが大事で、人は「歩くロゴマークだ」というのです。背筋を伸ばし、身だしなみを整えて、きびきび歩くと確かに元気が出てきます。

全ての日程が終わった後、私たち宮城県宗務所婦人会の方々がロビーに並び、他県の参加者をお見送りいたしました。



### 東北管区研修会に 参加して 「こころ美人」

清水寺仏教婦人会

斎藤京子

今年は宮城県が当番ということ  
で六月五、六日の秋保温泉「ホテルニュー水戸屋」での研修会はとても楽しみで心ワクワクしながら参加させていただきました。

当番県の金澤洋子会長の歓迎のことばで「こころ美人」というフレーズが私の心に深く響きました。資料のリーフレットによりまずと

「表面的なうつくしさだけでなく、内面から滲み出す美しさは清潔感と品格をともしなう魅力的なものです心の汚れは『お寺という場所に仲間と集まり、仏さまの教えを学び、また、ご本尊様の助けを借りることで本来の清らかな自分に立ち返る時間をつくるのです』と書いてありました。

人は清らかで無垢な心で生まれてきますが、年を取り心も汚れてきますが、汚れを掃除する方法を

学習させていただき有難く感じました。

講義1「津軽三味線と民謡」

講師 浅野 祥 様

津軽おはら節、津軽よされ節等の演奏は迫力と優しさの両端を表現された浅野様の民謡に圧倒いたしました。

浅野祥様の夢は、『もし東京オリンピックに出られるのなら小さい時から毎日弾いていた「津軽じょんがら節」を弾きたい』と話されました。

講義2「テレホン法話ライブ

― 心にお連れ様を―

講師 宮城県徳本寺御住職

早坂 文明 様

ステージには華やかなお花が飾られ、生ピアノのBGMが流れる中で「会員の誓い」の布施・愛語・利行・同時について身近なことを題材に分かりやすく話され、當行寺家族岡崎るみ子様の御詠歌のお唱えもあり瞬く間に過ぎました。

講義3 「なぜ、あの人はいつも品よく見えるのか?」何度でもいなくなる人に!」

講師 有限会社ケイアンドケイ 代表取締役 神津 佳予子 様  
①外見 ②立ち居振る舞い ③ コミュニケーションの三つが大切と話されました。

三人の講師先生の講演は「ころ美人」に繋がっているように感じうなづきながら拝聴させていたできました。今後の生活の中で「ころ美人」に近づけるよう実践できたらと思いました。大変感激したすばらしい研修会でした。

### 東北管区研修会に

#### 参加して

#### ― 出会い ―

清水寺仏教婦人会

千葉 みづき

もう一年たつのかと、時の流れの早さを感じながら、今年はどうな話を聞けるのかと楽しみにしてパンフレットを開いて「ビックリ」、懐かしい名前を見つけました。「津軽三味線と民謡の浅野祥」君その人です。彼は私がお世話になっている津軽三味線と民謡教室に小学校入学前頃にお爺さんと一緒に入ってきました。本当に立派になった彼の姿に感慨無量。演奏を聴いて感動で涙が出そうな

程でした。

次に「早坂文明のテレホン法話」のお話も心地よいピアノの音色に岡崎るみ子様の御詠歌のお声をのせていただき穏やかな気持ちになりました。

講義の後の楽しみのひとつだった夕食時宮城の自慢の「すずめ踊り」みんなで踊ってより盛り上がり、他県の出し物も楽しく最高の時間でした。

二日目の神津先生のお話で、八〇歳目前であっても自分の内面を磨くことの大切さを教えられ、本当に「あっ」という間の二日間でした。このような時間をいただき本当に有難うございました。

“こんな婦人会活動やっています”

### 「ふまねっと運動」で健康づくり

光明寺仏教婦人の会

光明寺仏教婦人の会平成三十年度は健康づくりを目指して、「ふまねっと運動」を始めました。床に敷いたあみを踏まないようにゆっくり歩く体に優しい運動です。

光明寺のご本堂内に延命ぼっくり地藏尊さまがいらっしゃいます。健康で長生きするようにあの世に行くときはあまりお世話にならずぼっくりと、皆様もどうぞお参り下さい。

毎回、前半は椅子に座って体をほぐす運動、後半はネットを踏まないように歩くのですが、ゆっくりの中にもステップに変化があったり手の動作がいたり競争ではないが、誰かが思わず間違えたりすると笑いが起こったり、かけ声を掛け合ったりとても楽しいコミュニケーションがうまれます。もちろん運動が終われば楽しい茶会が始まります。季節の漬物やお菓子などでゆっくりお茶っこして身も心も癒やして帰ります。

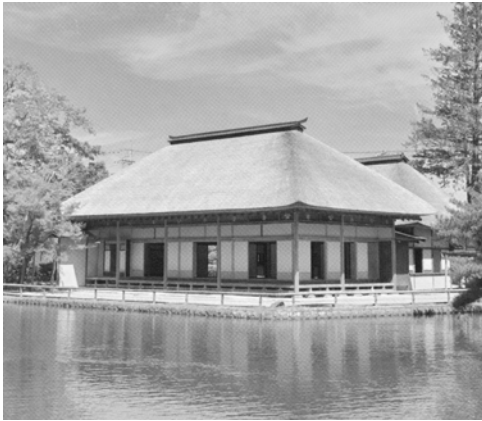




# 岩出山 旧有備館を見学

## — 楽しい遠足 —

妙心院婦人会



五月十九日(土)、仙台駅九時十三分発の「リゾートみのり号」に乗り込み、田植えが済んだばかりの田園風景を左右の車窓より眺めながら「有備館駅」まで約一時間超の旅を楽しみました。この列車は土曜、日曜、祝日だけの運行で、ゆったりした快適な車内でした。

改札口を出るとすぐ目的の「旧有備館」が見え、庭園の入り口の方にどっしりと落ち着いたただずまの有備館に案内されました。

平成二十三年の大震災で、甚大な被害に遭い、その後五年間かけ



全員集合？……何人か自由見学に

ての復旧工事は国指定史跡名勝ゆえに、さぞかし大がかりであったことと、見事復元に到った経緯に思いを巡らしました。政宗公が仙台城に移り、岩出山城主の代々隠居所と共に儒学とかの勉学所になったと話を聞きし、いにしえの貴重な方々が四季折々に愛でたであろう手入れの行き届いた池のほとりや散策する人、縁側に腰かけて休む人、それぞれに往時を偲びま

した。

「水月」という創作割烹家さんで珍しいひょうたんの漬物とか、おいしいランチをいただいている時、教職にあった高橋たつ子さんが、新任女性教員の指導担当した時代の若い先生だった方と再会のひと

ときがあり、周りの私達も温かい気持ちになりました。

城下町を町ぐるみで守っていることが、ここかしこに見受けられる町並みにも感じしました。

とても意義のある郊外学習の一日を過ごしました。

平成三十年十月十日(水)

## 宗務所婦人会日帰り研修に参加して

### ♪であいとわかれをだきしめて♪

圓通院婦人会 伊 東 美智子

四十八名の皆さんと帰りのバスの中で歌いながら…。今日は楽しかった。参加してよかった。いろいろ話合えたし。六千四百歩も歩いたし。と…。

。松島湾 遊覧(芭蕉丸にて)

松尾芭蕉が塩釜から舟で松島まで旅したコース。海はおだやか、空は曇りで時々雨模様。しかし私達の心は幼い頃にもどる。沢山の島々の説明をパンフレットを見ながら「あれだ」「こっちだよ」と。

しかしはっきりしたのは、仁王島と材木島ぐらい。それにしても、松の木が全々ない島があり不思議

に思った。以前のように鳥が船によってこないのも変だな?と思っただ。五年程前から餌づけ禁止になっているとのこと。糞害によって松の木が枯れるとの事。震災のため形が大きく変わった島もあり、大小二六〇あまりある島々が津波と体あたりで松島の人々を守ろうとしたんだな…!!船に乗ると陸に居る時より波のこわさ実感。

。瑞巖寺見学(ガイドさんが楽しかった)

天台宗から鎌倉時代に臨済宗に変わる。天台宗の頃の修行の場だった洞くつ。住居、トイレ、経典を

収納した所の説明あり。参道にまわって津波がここまで来たという所に立つと杉の木が、かなり少なくなっていた。震災の翌年塩害のため樹齢四〇〇年の杉を約七〇〇本切ったという。一番奥にある樹齢八〇〇年の杉は残りよかった。以前の景色とはかわり明るくなり、小さい杉が植えられていた。そのあと庫裡（台所）本堂の見学。昭和六十年から十年間の障壁画の保存修理と模写。平成二十年から平成三十年までの建造物保存修理。地盤から全部解体しての平成の大修理／四〇〇年前の姿にもどった本堂を見学し昔の人々の技巧、考え方、心いきに心をうたれたが、いやいやそれを復元した現代の人々の能力と技術もすばらしいのではないかとその仕事の様子を見てみたいと思った。

。洗心庵での昼食（二階に上がる階段がきつかった）

美味しい上品なランチをいただきそのあとは、自由行動、雨もあり…。

「松島は、さすがだね。平日なのに、観光客が多いね。」と言いがら買物をする自分たちも、その一人でした。

## 「東日本大震災を想う」

— 婦人会に入るきっかけに —

當行寺ハチドリ婦人会 森 すみえ

あの日、私は勤務先の仙台市泉区に居た。一時間後、自宅に帰る車の中では、仙台空港の映像が流れていた。その様子では海岸からさほど遠くない亘理町荒浜の自宅も大変なことになっているだろうと気が急いだ。大地震のためいつも通っている道路は、もはや道路の形はなく、迂回しながら、災害時に避難先と決めていた義妹の家に寄ったが誰も来てはいなかった。自宅に向かったが目前のところまででそれ以上行けない状況だった。

その後、家族を亡くした悲しみから誰も知る人のいない所に行きたいと言ったり、もう何もいらないうという私に、義兄は家具類の他、仏壇も準備してくれた。そこで、仏壇を安置する家

が必要なこと、生きている私たちは、亡くなった家族の供養もしながらはならないことに気がついた。年齢の順に亡くなったのだから、自分にいじかせ、まづ自宅を再建することにし、親戚が多く住んでいる岩沼市に決めた。

遺骨を納めるお墓の修理、葬儀の準備を考えたのは、一か月も過ぎていた。親戚では震災後葬儀をした人達はまだいなかったが、私は菩提寺に相談をし、五月の連休にお葬儀をしてもらった。

その年、十一月末に新居に移ることができた。新居には、亡くなった姑のお茶のみ友達がきてくれた。皆住むところがばらばらでお互いに懐かしく、喜んで集ってくれた。月一回私の家で昼食を食べながら、夕方までお茶飲み会を開くことにした。一年続いたころ、それぞれの都合でできなくなった。その頃、ねんごろに供養してくださる菩提寺に通う中、「刺し子教室」のチラシが気になっていった私は、茶飲み会の人と一緒に入会した。刺し子そっちのけの語らい、寺族様の身にしみる心からの温かいお接待等を受けながら私にも何かお手伝い出来ることあるのでは…と婦人会に入るきっかけとなった。婦人会では、向上心の高い先輩達が、一生懸命に会の運営を考えていた。勉強はもういいかなあ…と思いつながら各種の研修会を楽しみに参加している昨今であります。

# 待ちに待った 上棟式を迎えて

耕田寺婦人会



澄み渡る秋晴れの下、十一月四日に菩提寺である耕田寺は東日本大震災で被災した本堂の上棟式を迎える事が出来ました。あの震災の時、お寺の建物は大変な被害を受け、特に「向拝」(本堂玄関?)のくずれ落ちた状況を目にした私は大震災の恐ろしさに立ちすくむばかりでした。

あれから七年八ヶ月、住職様、

寺族様、多くの皆様のご尽力で上棟式を迎えられました。

当日は、朝早くから、総代さんのお宅で檀家さん有志と婦人会の方も入り「撒き餅」作りをしました。寺の書院では耕田寺婦人会の方々が昼食の豚汁作りを。みんな笑顔笑顔でした。午後からは婦人会全員で上棟式に参列しました。厳かな式典や古式ゆかしき儀式に触れ、一生に一度、このご縁に出会えて大変感動致しました。

本堂完成後には、途絶えてしまった寺の行事の復活と共に婦人会の活動に、みんな心をひとつに頑張っていきたいと語り合い、みんな良い顔で散会しました。 合掌



## 平成二十九年度 宗務所婦人会新年研修会

日時 平成30年1月29日  
場所 仙台サンプラザ

耕田寺婦人会  
高野 けい子

宮城県曹洞宗青年会会長長谷川俊昭様の講話を拝聴した折、7年前の東日本大震災時に金沢から大変な思いで帰宅することができた話に、同じ体験をしてきた私は、涙を押えることができませんでした。

何故なら、私も、通信網や交通機関が機能しない中、不安や恐怖感で一杯のところ知人、友人に助けられ、娘の居る「埼玉県」から庄内空港経由で大変な思いをして仙台に6日後に帰宅することができたからです。

あの時、私を支えてくれた知人、友人に、今も感謝の気持ちで一杯です。

相手の気持ちを考え、そして支え、人に寄り添うことを仏語で「同事」というこの言葉は、「同事」と同じ意味なのだと言語話で知りました。

今も、あの時、困っていた私に手を差し伸べてくれた知人、友人に「同事の心」を想い、感謝の気持ちが改めて甦りました。常に、相手の立場に合わせ、気持ちを考えて行動し、人に寄

り添うことは難しいものでなかなか一朝一夕にはできるものでもありません。

日々の生活において、伴に願いが大事であると「道元禪師が遺されたお言葉」を聴き、思いやりや感謝の気持ちをもって過ごすことこそが大事なことで、菩提寺の護持会役員会等に出かける主人に時々付いて行っているうちに、婦人会の存在と活動を知り、日頃お世話になってる菩提寺に微力ながらも奉仕したい、そして奉仕活動を通して人々に接し、さまざま世を知り、自分もちょっと成長できたらとの思いで入会した婦人会で「心配り」「心配り」「目配り」ができるように心掛けながら、これから活動して行きたいと思っております。今回、心に残るお話し、それと楽しい余興等で新年研修会らしい有意義な時間を過ごすことができましたこと、本当にありがとうございます。

### 評議員報告

評議員 金澤洋子  
花釜祥子

三十年

二月二十八日・三月一日

東北管区研修会準備打合せ会  
(ホテルニュー水戸屋)

評議員他六名出席

五月十五日・十六日

「曹洞宗婦人会」全国評議員会  
「曹洞宗婦人会」平成三十年度  
総会(東京 宗務庁)

詳しくは、本部婦人会発行  
「きゃら七十八号」をお読み下  
さい。

六月四日

東北管区評議員会・準備会  
(ニュー水戸屋)

評議員他五名出席

六月五日・六日

東北管区研修会(宮城県当番)  
(ニュー水戸屋)

十一月十三日・十四日

全国評議員会・東北管区評議員会  
「曹洞宗婦人会」中央研修会  
(東京・宗務庁)

予定

三十一年二月

東北管区研修会準備打合せ会  
(山形県上市市)  
東北管区研修会(山形県当番)

平成三十一年七月十七日・十八日  
山形県上市市「古窯」

### 宗務所婦人会平成三十年度主なる事業

(平成三十年四月)平成三十一年三月

四月 | 新年度総会

(於 宗務所)

六月 | 東北管区研修会

(当番県 | ニュー水戸屋)

十月 | 秋の日帰り研修会

(松島・瑞巖寺他)

十二月 | 会報三十一号発行

三十一年

一月 | 新年研修会

(ホテルモントレ)

宗務所開催行事に積極的に参加  
「グリーンプラン運動」の継続  
| 墓地環境に関して

### 評議員とは

評議員は、任期2年で寺族から1名、檀信徒会員から1名計2名が宗務所単位で選出され、本部婦人会への届出や申請など評議員がすることになっております。

中央ないし東北管区とのパイプ役のお仕事です。

全国からの代表の方々との交流も大切な学びの場となっております。



「曹洞宗婦人会」の結成にご尽力された大先輩諸師方、「宗務所婦人会」を立ち上げ、県内御寺院にその意味合いを説かれ今日の根底をがっちり作られた方々…。私達は、曹洞宗の信仰に基づいた組織の中でお寺を寄りどころと集う檀信徒婦人の方々と歩んで来た三十有余年、先輩方の努力に寄り添ってこれたでしょうか。

檀信徒婦人と寺庭婦人の集りですのでお楽しみの中に必ず「学び」のあることを目的に、加入婦人会では地域性のある活動をそれぞれがんばっております。

### 編集後記

「平成を振り返って…」というフレーズを耳にすることが多くなり、時代が動くことを感じられます。

▼宗務所婦人会報も、第三号から平成元年十二月発行となり、この三十一号で平成の年号が終了です。思えば、昭和六十二年十一月、創刊号の発行から綴ってある三十冊の会報は、今や貴重な記録簿になっております。

▼この暑い夏に、秋田県立金足農業高校野球部は、東北人にとってなんと心強い試合を決勝戦まで戦い抜いて見せてくれたか。高校野球の原点、と言わしめた姿でした。

「応援してくれた全ての人に感謝し、胸を張って帰ります」と主将の挨拶。

▼東北管区研修会の当番県だった私達も、関係して下さった全ての人に感謝します。そして「おかげさまでございました」と改めまして御礼申し上げます。平成の時代最後の会報をお届け致します。

### 発行

曹洞宗宮城県宗務所婦人会

〒九八一-一三一-一七

仙台市泉区市名坂字

檀町一六九-四

電話〇二二-二一八-三八〇一

曹洞宗宮城県宗務所内